

海のルアーの遊び方

SW マガジンの人気コーナー SW レベルアップ Q&A ベスト版

contents



アオリイカ

秋の数釣り編

アドバイザー / 大森崇弘

サーフエギング編

アドバイザー / 弓削和夫



アジ

脱ビギナー

ベイエリア編

アドバイザー / 藤原真一郎



メバル

脱ビギナーベイエリア編

アドバイザー / 藤原真一郎

港湾のプラッキング編

アドバイザー / 北村武彦



アジ

アジング急潮流編

アドバイザー / 馬上憲太郎



青物

ショアジギング編

アドバイザー / 赤木光広



マルスズキ

リバーゲーム編

アドバイザー / 田村 良

磯編

アドバイザー / 加地武郎

河口編

アドバイザー / 山本典史



ヒラスズキ

磯ヒラ入門編

アドバイザー / 山本典史



タチウオ

ショア・ワーム編

アドバイザー / 菅川昌紀



メッキ+α

トウィッチを

極める編

アドバイザー / 広瀬達樹



アコウ

テキサスリグ編

アドバイザー / 辻本ナツ雄

マルスズキ

港湾バチ抜け編

アドバイザー / 宮川 朗

チヌ

底ズル編

アドバイザー / 若菜康彦

トップゲーム編

アドバイザー / 武田 栄

多魚種

エギングロッド応用編

アドバイザー / 下塚宏高

コレ
を買えば
万全!!

LURE KNOT Guidance

ルアーフィッシングを快適に楽しむには各種ノットの知識が欠かせない。
とりあえずこれだけ覚えておけばバッチリ!!

ルアーノットガイダンス

Menu

SFノット / FGノット / オルブライトノット /
電車結び (ユニノット) / ブラッドノット /
ノーネームノット / ハリソンズループノット /
プリンソンノット / クリンチノット / パロマーノット

A&Q4

釣り方は？

まずは宙層をテンポよく探り、高活性なイカを拾っていく

秋の釣りではテクニクよりも、確率の釣り。にこだわる方が好釣果を期待できる。要するに釣りやすいヤツを先に見つけて釣っておくという作戦だ。特に平坦な地磯や沖磯などの移動が容易な場所では効果的である。

まず、朝イチはハイペースで周辺をチエックする。活性の高いヤツは浮き気味なので餌木は宙層まで沈める程度とし、ショートジャーク数回に短めのカーブフォールというパターンで次々と探り歩く。

これでスレていない高活性なイカはすぐに釣れるだろう。また、追尾して行くのも興奮状態のヤツが多いから比較的抱かせやすい。とにかくそのポイントでの1〜2投めが最も釣れる確率が高いので、その確率に期待した釣りである。

そして、こういう場面で必ずいるのが、毎回追尾してくるのになかなか乗ってこないヤツだ。そんなイカを相手に粘らず、そのポイント、つき場だけをきっちり覚えておく。あとからじっくり攻めるようにするわけだ。

乗らないイカは粘れば粘るほどスレるし、朝夕のまづめどきだったら他にもっと釣れやすいイカがいるかもしれない。そこで時間をかけるのはもったいないものだ。

シャクリに慣れない人は…



ショートジャークの感覚をつかむには、リールのハンドルを持つ手は動かさず、竿を持つ手を動かしてリールの動作を続けるといい。

見えないストラクチャーを意識して…



宙層の見えイカをひと通り探り終わったら、次は潮目や潮ヨレ、沈み磯といった見えないイカが潜んでいるはずのスポットを丹念に探る。

潮流の変化の目安とは？



潮が流れている状況でゴミや白濁などが溜まっているラインがあれば、潮流の変化があると判断できる。そこには潮に乗って回避してきたフレッシュなイカがいる可能性が高い。

A&Q5

合わせのコツは？

アタリのパターンに応じてかえる

最近、**「ピンツ!!」**と合わせるスタイルが主流となってきたが、私的にはこれを肯定も否定もしない。アタリにはそれぞれのパターンに応じて合わせ方が存在すると考えているからだ。

アタリの方には大きくわけて2種類がある。まず、ラインが餌木の着底時のようにフックとフケのアタリだ。これはイカが落ちると餌木を抱いたときのパターン。少々合わせが遅れても特に問題はない。ただ、横抱きしていることも多く、ハリ掛かりしていない可能性が高い。こう

いうアタリに対してはしっかりと合わせを入れてやらなければならぬ。類似系のアタリとして、フォール中にラインが止まったり、いつまでもゆっくりと一定速度で引き込まれたりするようなアタリがある。これはアタリと判断しにくいもの、いずれにせよ「遅れてもいい。しっかりと合わせることが大切!!」というパターンだ。アレ? と思ったら、そらっと糸フケを回収し、しっかりと合わせを入れるべきである。

2つめの代表的パターンは引ったくり系のアタリ。秋イカに多い、イカパンチといわれるような一気にラインをひったくるようなアタリだ。警戒心の高まったイカ独特の反応であり、イメージ的には餌木を一瞬だけちよこつとさわり、一気に逃がすような感じだ。

このとき、イカは餌木を抱いているのではなく、触手でつかんでいる



明確なアタリを得るためには糸フケを出し過ぎないこと。このため強風時や足場が高い釣り場などではラインをコントロールしやすいロングロッドが有効な場面が多い。

さて、ひと通り探り終えたら、ここからはきつちりとボトムを取ってからの誘う釣りを展開する。それも先ほど追尾が多かったところ、気になったポイント等重点的に探ることだ。まずは着底判断を毎回行なうリフト&フォール。釣果に期待する一方、地形を探ることも意識しておくことが重要だ。沈み磯があるとか、ブレイクラインが存在するとか、深場であるとかいった具合である。この作業は当日に反応がなくても必ず次の釣行時のプラスになる。

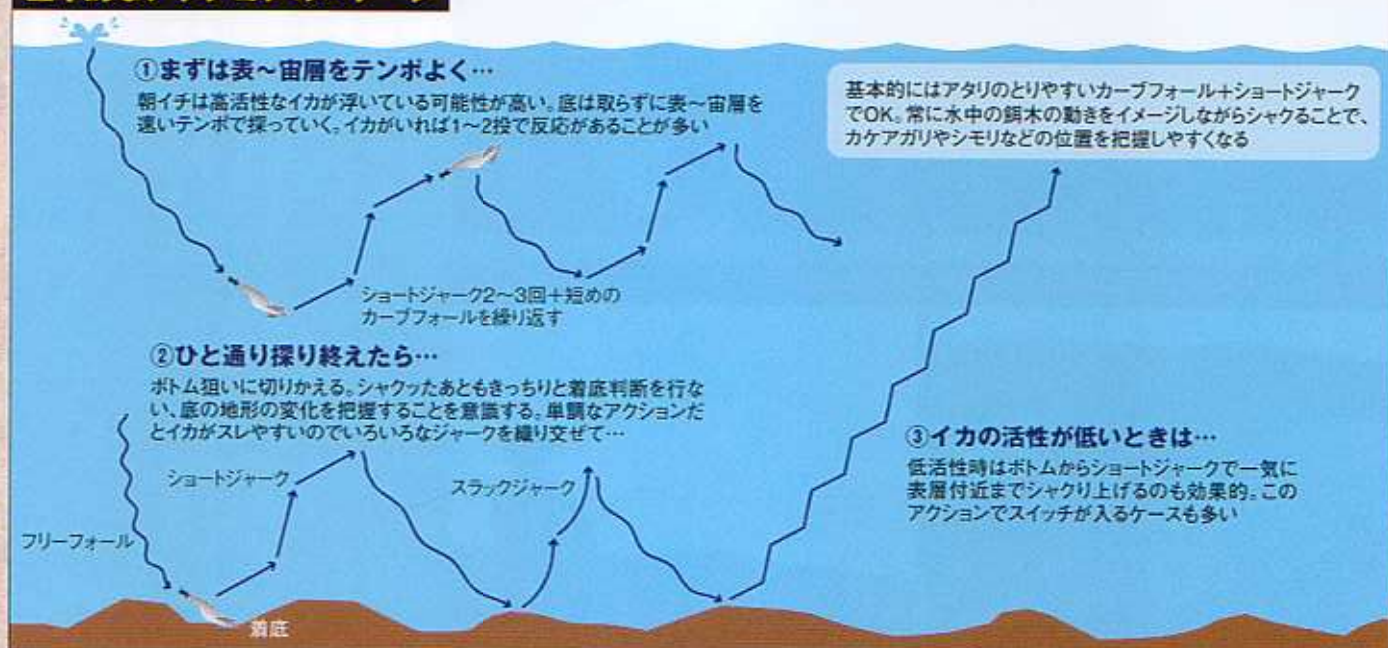
こんな感じで秋イカ釣りでは釣りやすいイカを先に釣っておいでから気難しいものに挑戦する方が効率がよいと考えて、このスタイルを実践している。

人が多い波止、足場が少なく移動できない磯などの1個所だけでできないポイントでも基本は同じだ。まずは懸状にキャストして宙層をメインに活性の高いイカ捜しからスタートする。それで釣りやすいイカを抜き終わったらボトムまで沈め、地形把握を意識しながらボトムの釣りとする。

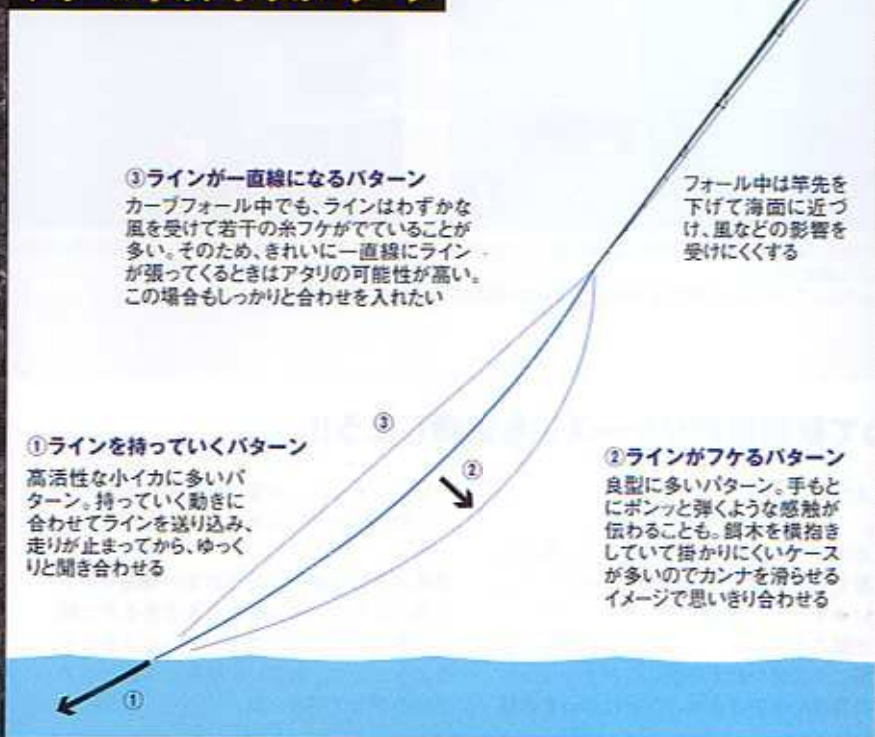
以上のような釣り方が最初に行なうべきエギングのスタイルである。で、次の手は？ となると、そのポイントに見切りをつけて大幅に移動してもよいし、潮目や流れの変化に期待して回避を待つのもよしだ。

数が釣れる秋シーズンとはいっても、1日中やっていれば必ず釣れない時間帯というものも存在する。そのときに待つのか？ 移動するのか？ 休憩するのか？ 時間を有効に利用することを考えるのも重要だろう。

基本的なアクションのパターン



フォール中のアタリのパターン



だけだと思おう。したがって、そこでビシッと合わせてしまうとほとんどがスッポ抜け、あるいはゲンや吸盤だけが上がってくるという結果になりかねない。

こういうアタリに対しては送り込む方がいい。引たくる動きに追従するように穂先を送り、それからゆっくりと聞き合わせる。ただし、これでフッキングが決まったとしてもこのパターンではほとんどが足一本掛かりなので慎重に寄せること。決して力比べ的なフアイトをしてはいけない。